

「大会アンケート」回答のまとめ

将来計画委員会 2021/03/21

2020年11月半ばから2021年2月末日まで、本学会ホームページにて、「2020年度大会アンケート」を行い、48名の回答を得た（総会員数は1571名。2020年10月8日付「第2回理事会議事録」に拠る）。以下、アンケートの項目別に結果を記述する。

回答者の年齢は、30代が13名、40代が10名、50代が12名、60代が11名、70代が2名。

回答者の所属地区は、関東地区が16名、近畿地区が11名、中国・四国地区が7名、中部地区と九州地区が各5名、北海道地区が2名、東北地区と国外地区が各1名。

性別は、男性が25名、女性が20名、「回答しない」が3名。

母語は、日本語が43名、中国語が4名、韓国語が1名。

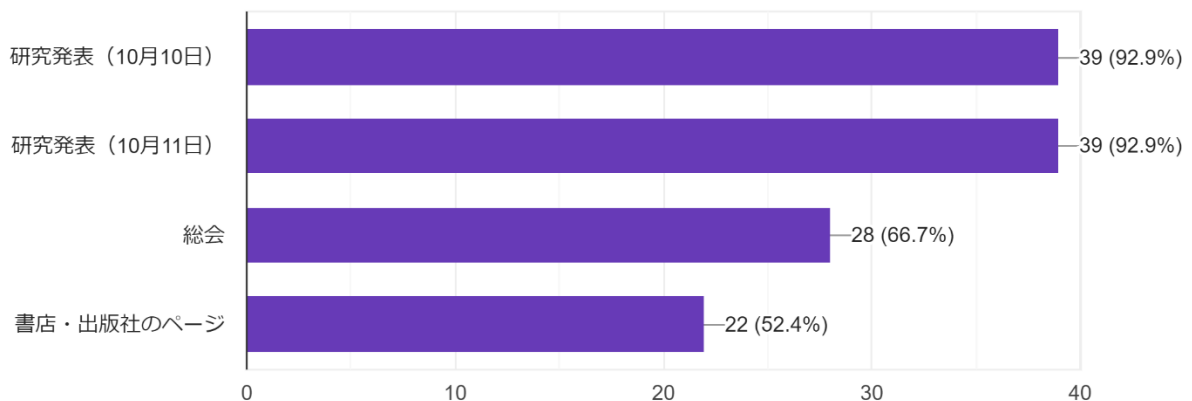
今大会に参加したかたは42名、不参加のかたは6名。

不参加の理由は、「当初から不参加の予定」が3名、「参加を試みたがアクセスできなかった」、「日程を間違えた」、「オンラインだと参加するのがおっくうになった」が、各1名。

■ 大会への参加について

参加された方。そのプログラムをお選びください。複数回答可。

42件の回答

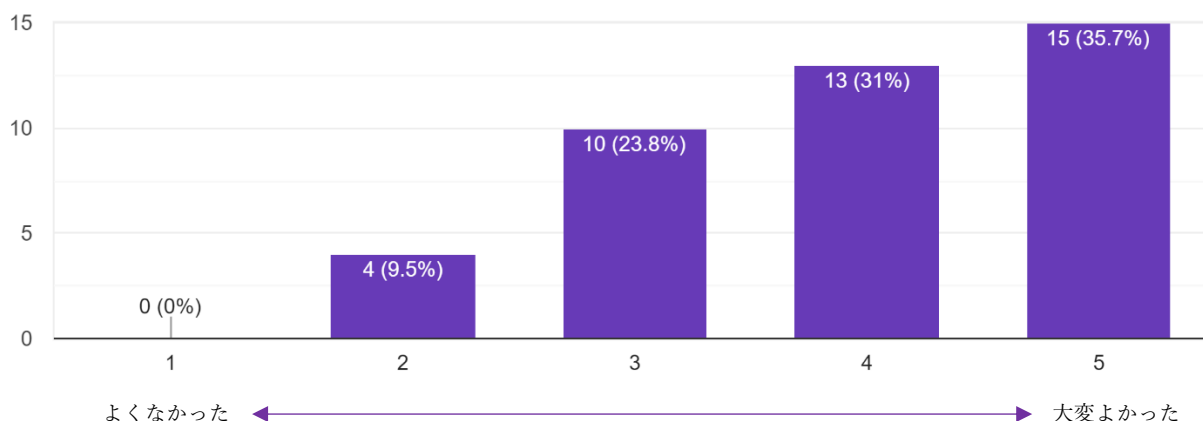


42件の回答のうち、10月10日・11日の両日とも「研究発表」のプログラムへの参加が39名（92.9%）に及んだ。次いで「総会」への参加が28名（66.7%）、「書店・出版社のページ」への参加が22名（52%）と続いた。

■研究発表の実施方法（オンデマンド方式）について

研究発表の実施方法（オンデマンド方式）はいかがでしたか。次の中からお選びください。

42件の回答



42件の回答のうち、多い順に [5] が 15 名 (35.7%)、[4] が 13 名 (31%)、[3] が 10 名 (23.8%) と続いた。[5] [4] をあわせると、28 名 (66.7%) になり、参加者の約 3 分の 2 がよかったと回答した。

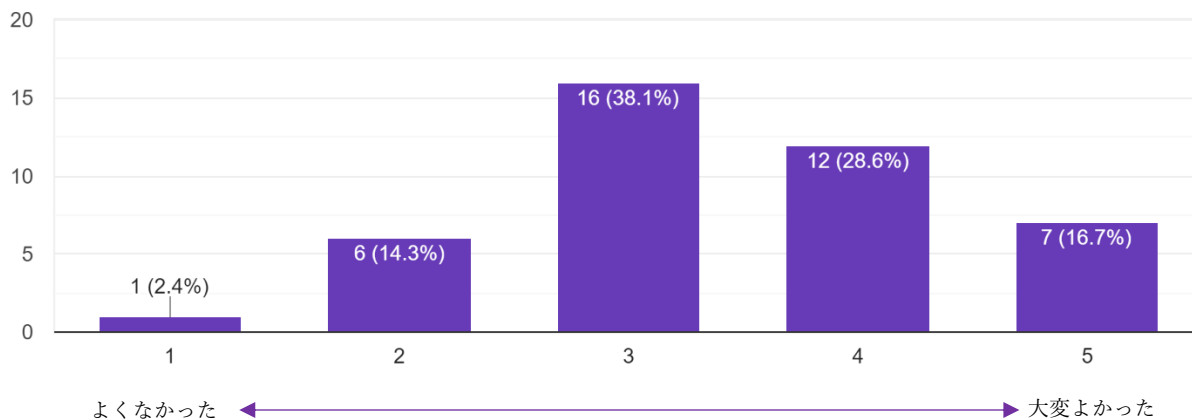
▼よかった点、改善の余地がある点など自由にご記入ください。

「旅費や宿泊費が必要ない」「自分の好きな時間に視聴できた」「何度もじっくり聞くことができた」「興味あるものは一通り視聴できる」など、肯定的な回答があった一方で、「発表の醍醐味が薄らぐ」「会場の一体感がない」「発表者の顔が見えない」「発表者が一日中、張り付いていなければならない」など、問題点を指摘する回答もあった。その他、「実施方法としては適当とはいえない。あくまで緊急時の次善の策である」という回答もあった。

■研究発表の公開期間について

研究発表の公開期間（当日9時～18時）についてはいかがでしたか。

42件の回答



42件の回答のうち、多い順に [3] が16名 (38.1%)、[4] が12名 (28.6%)、[5] が7名 (16.7%)、[2] が6名 (14.3%) と続いた。公開期間の是非については、中間的な回答が多かったことに加えて、評価にばらつきが見られた。

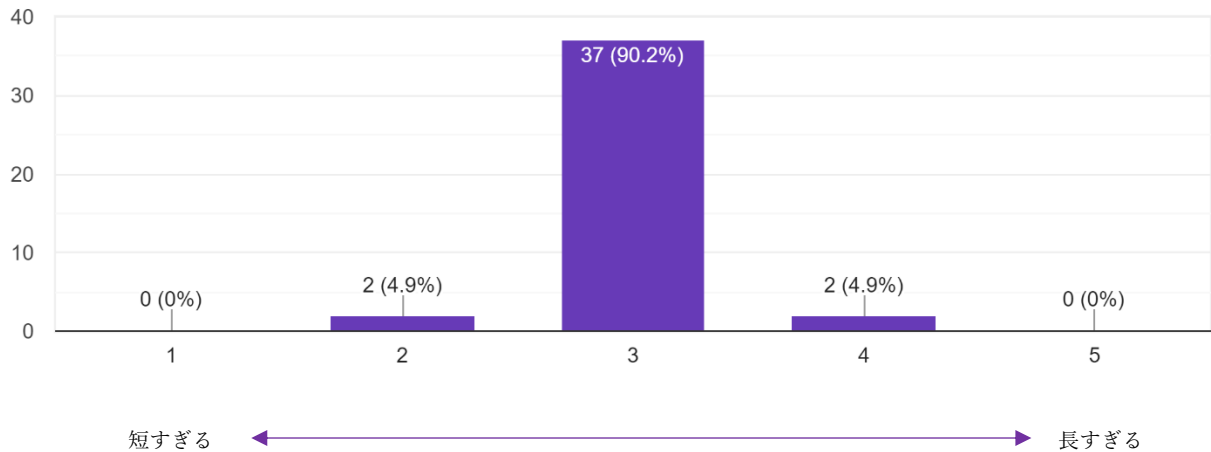
▼よかった点、改善の余地がある点など自由にご記入ください。

公開時期について、「当日に限る必要はない」「夜間まで公開してほしい」「三日間くらいほしい」「一週間くらいほしい」など、時間の延長を要望する回答が多く寄せられたが、その一方で、司会者・発表者について、「一日中、待機しなければならない」「長時間の負担を強いる」など、時間の制限を求める回答も少なくなかった。

■研究発表の時間について

研究発表の時間（20分間）についてはいかがでしたか。

41件の回答

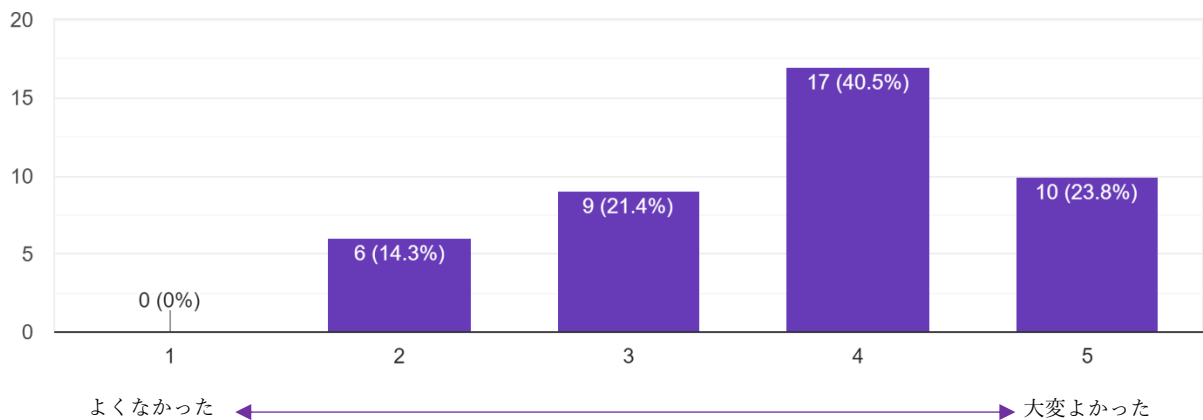


41件の回答のうち、[3]が37名（90.2%）とあるとおり、研究発表の時間は適当という回答が大半を占めた。

■司会のコメント方法について

司会のコメント方法についてはいかがでしたか。

42件の回答



42件の回答のうち、[4]が17名（40.5%）と最も多く、次いで[5]が10名（23.8%）、[3]が9名（21.4%）、[2]が6名（14.3%）と続いた。[4][5]をあわせると、27名（64.3%）に達し、おおむねよかったと受け止められたようである。

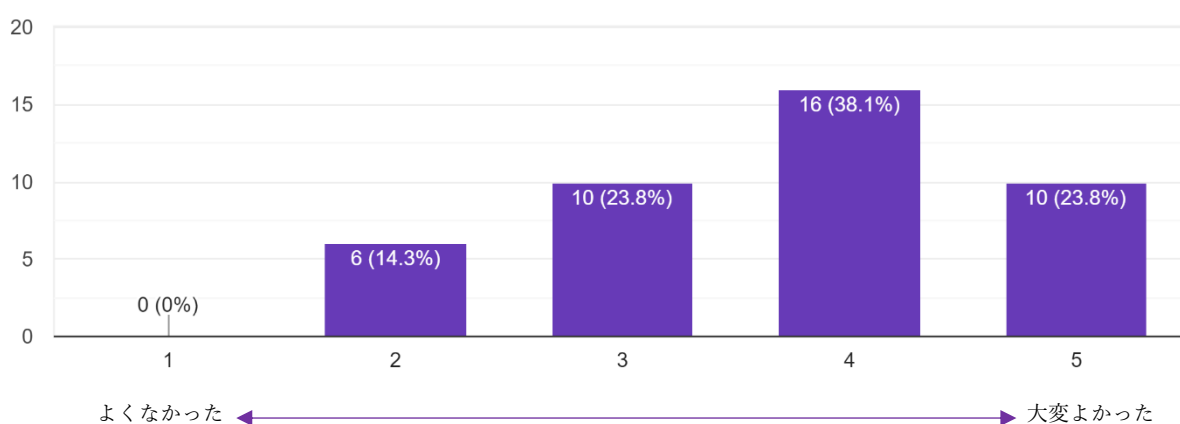
▼よかった点、改善の余地がある点など自由にご記入ください。

司会者のコメントがあらかじめ文章化されたことについて、「じっくりと考えながら書ける」「不案内な領域については調べながらコメントできる」「すべて文字として残るので、発表者にも視聴者にとってもよい」など、肯定的な回答があった一方で、「司会者も映像で出た方がよい」「司会がないも同然といった発表もあった」「発表者とのやりとりが進展しない例があった」など、問題点を指摘する回答もあった。

■質疑応答の方法について

質疑応答の方法についてはいかがでしたか。

42件の回答



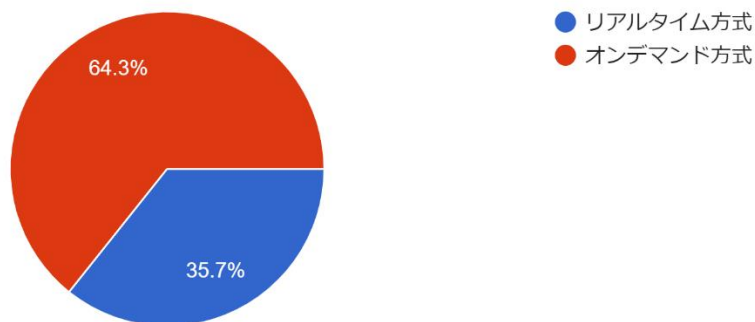
42件の回答のうち、[4]が16名（38.1%）と最も多く、次いで[3][5]が同数で10名（23.8%）、[2]が6名（14.3%）と続いた。[4][5]をあわせると、26名（61.9%）であり、おおむねよかったと受け止められたようである。

▼よかった点、改善の余地がある点など自由にご記入ください。

書き込み式の質疑応答について、「質問しやすい」「聞き逃すことがない」「文献を参照できる」「口頭より論点が明確になる」「質の高いやりとりが行われた」など、高く評価する回答が多く見られた。その一方で、「質疑の時間が短い」「議論の途中から、割り込むのは難しい」などの回答があった。さらに、質疑応答の時間制限が無かった点について、「発表者・司会者にとっての負担が大きい」といった回答もあった。

■今後の大会の方式について

今後オンライン方式による大会を開催する場合、z...マンド方式のいずれが望ましいと思われますか。
42件の回答



42件の回答のうち、[オンデマンド方式]が64.3%、[リアルタイム方式]が35.7%となり、おおむね2対1の割合で、[オンデマンド方式]を希望する方が多かった。

▼今後オンライン方式による大会を開催する場合、zoomなどを用いたリアルタイム方式とオンデマンド方式のいずれが望ましいと思われますか。／その理由を自由にご記入ください。

[リアルタイム方式]を支持する意見としては、「緊張感は欠かせない」「達成感や充足感が大きい」「発表者の負担を軽減するため」「発表者を長時間拘束する必要がないため」などの回答があった。

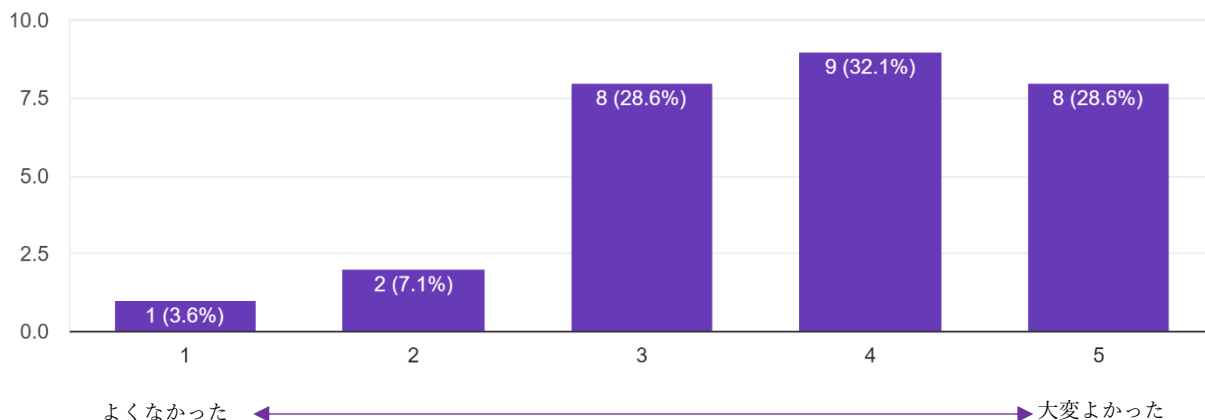
一方、[オンデマンド方式]を支持する意見としては、「自由な時間に視聴できる」「繰り返し見ることができる」「原典や参考資料を確認できる」「通信回線を気にしなくてもよい」「異なる部会の発表を視聴できる」などの回答があった。

加えて、両方の方式を折衷する意見として「発表はオンデマンド、質疑はリアルタイム」あるいは「リアルタイムで発表と質疑、それを録画してオンデマンドで公開」といった回答があった。

■総会について

総会に参加された方におたずねします。総会の内容についてはいかがでしたか。

28件の回答



28件の回答のうち、[4]が9名(32.1%)と最も多く、次いで[3][5]が同数で8名(28.6%)と続いた。おおむね好評であったといえる。

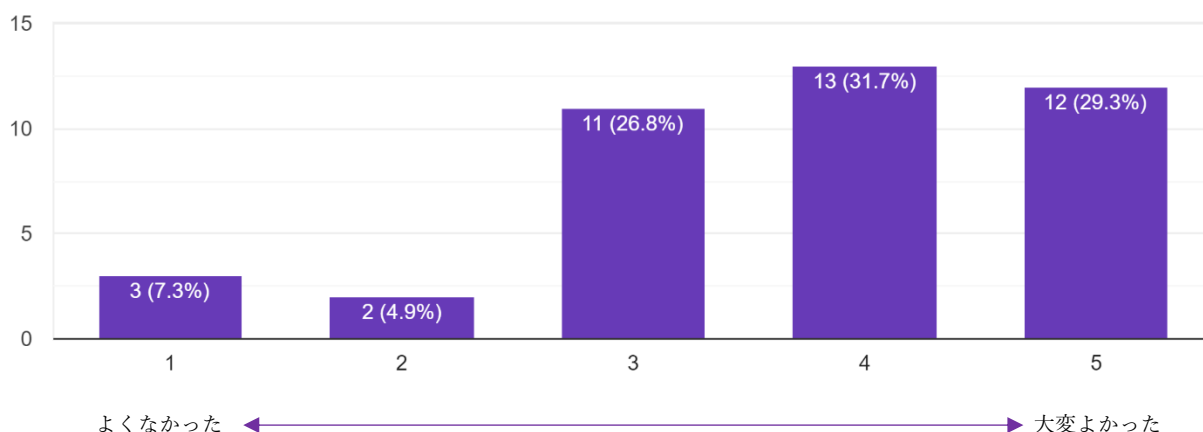
▼よかった点、改善の余地がある点など自由にご記入ください。

「授賞式が行われたのがよかった」「理事長の挨拶、自作の漢詩がすばらしかった」「学会賞受賞者の声が身近に感じられた」など、高い評価が得られ、中には「今後はこの形を積極的に活用すべきである」という提言もあった。その一方で「質疑応答の時間や方法がない」「総会だけはリアルタイム方式で行うべきであった」という回答があった。

■大会開催に関わる連絡のしかたについて

大会開催に関わる事項の連絡のしかた（今回は大会...せに掲載しました）についてはいかがでしたか。

41件の回答



41件の回答のうち、[4]が13名(31.7%)と最も多く、次いで[5]が12名(29.3%)、[3]が11名(26.8%)と続いた。おおむね好評であったといえるが、[1]が3名(7.3%)、[2]が2名(4.9%)あったことは留意しなければならない。

▼よかった点、改善の余地がある点など自由にご記入ください。

今回の連絡方法については、肯定する意見が多かったが、それにも増して、電子メールでの連絡を希望する回答が少なくなかった。また、パスワード郵送の簡素化、パスワード紛失時の対策などに関する意見もあった。

■その他、第72回大会に関して、お気づきの点やご意見などがありましたら、自由にご記入ください。

「大変な状況の中で開催が実現したのは素晴らしい」といった声に代表されるように、大会幹事校に対する謝辞が多数見られた。その中で、「具体案は思いつかないが、懇親会的な要素がほしかった」「今後の大会のあり方に、多くの可能性を示す良い機会になった」という回答も見られた。

■日本中国學會全般について、ご意見やご提言などがありましたら、自由にご記入ください。

回答の中から主な意見をアトランダムに掲げると、以下のとおり。

- ・二年連続で大会が開催できなかったことを受けて、学会はなぜ存在し、どうあるべきかを根底から問い直す時期にあるのではないか。
- ・学会に入っているメリットは何なのか、わかりづらくなっている。
- ・今後の大会は、基本、オンデマンドが良い。
- ・今後ともオンライン学会の可能性を探ってほしい。
- ・大会での質疑応答を活性化するため、事前にレジュメだけでも学会HPに公開してはどうか。
- ・発表時間をもう少し長くすると、じっくりとした内容を聞くことができる。
- ・若手が希望をもてるような学会になればよい。
- ・若手シンポジウムを開催してほしい。
- ・若い世代の会員を学会運営に取り込むなど、旧来の学会とは異なる大胆な方式を試みてほしい。
- ・若手の発表者に交通費や資料印刷代の支給を検討してほしい。
- ・研究発表や掲載論文の水準を高く維持してほしい。
- ・研究活動を活性化し、学会員であることの認識を相互に深めるため、会員が毎年の研究業績を持ち寄り、分野や時代別に分類したデータベースを作成して、HP上に公開してはどうか。
- ・漢文教育学会との同日または連日で開催してほしい。
- ・今後はメールによる通知ができるようにする必要がある。

※ 自由記述欄の文章については、文意を損わない範囲内で、一部、表現を改めたところがある。